



◇3月（弥生）です!!◇

令和5年度も最後の月を迎えました。弥生3月です。桜の開花も近づき、春本番が近づいてきました。3月に入り、中学校では高校入試から卒業式へと、大きな節目の時を迎えました。今年度湖南中学校では196名の卒業生を送り出しました。春らしい陽ざしに包まれる中、2年生と教職員、そしてたくさんの保護者の皆様に見送られて、卒業生たちは胸を張り、笑顔で校舎を後にしました。9年間の義務教育を終えて、社会へ歩みを進めた卒業生のこれからは、幸多かれと願っています。「湖南中学校だより」3月号では、卒業式の様子を中心に学校の様子を紹介します。



◇第49期「卒業証書授与式」を挙行了しました◇

3月8日（金）令和5年度の卒業証書授与式を挙行了しました。今年度は、ご来賓に学校運営協議会委員の皆様をお招きして、卒業生の晴れ姿をご覧いただき、励ましのメッセージをいただくことができました。当日、卒業式の中で披露されたメッセージ（式辞・送辞・答辞）を紹介します。校長式辞は一部を抜粋して、生徒代表の送辞と答辞は全文を掲載します。生徒の文章に込められた想いをご覧ください。

<校長 式辞>

宍道湖を望む湖南の台地にやわらかな陽ざしが降り注ぎ、日ごとに春本番が近づいていることを感じられるようになりました。本日ここに、松江市立湖南中学校 令和5年度卒業証書授与式を挙行できますことを大変嬉しく思います。心から感謝とお礼を申し上げます。さて196名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。今日皆さんが手にする卒業証書は、義務教育9カ年の全課程を修了した証です。担任の先生から受け取ったら、隅から隅まで目を通して、中学校を卒業したということを実感してください。

9年間の義務教育を終えようとしている今、皆さんは一抹の不安と寂しさを感じながらも、大きな満足感や達成感を感じていることと思います。振り返ってみると、昨年5月に新型コロナウイルス感染症の制限が緩和されるまで2年あまりの期間、皆さんの中学校生活には、厳しい行動制限がかかっていました。できないことがたくさんあり、悔しさや残念な気持ちを感じながら、制限が解除される日を待ち望んでいたことと思います。先生方や保護者の皆さんも、皆さんと同じように、迷い、悩み、皆さんのことを心配し続けた2年間になりました。

先生たちが一番心配していたことは、中学生の間に身につけて欲しい『心の成長』ができていのかどうかという点でした。『心が育つ』ためには、友達や先生、地域の方々などの『人』と直接触れ合い、交流する中で色々な体験をすることが欠かせません。交流をする機会がなく、心を育てることに欠かせない体験ができずにいたことに、強い危機感を感じていた2年間でした。そして迎えた令和5年5月8日、コロナ感染症が5類になり、ようやく行動制限が解除されました。それまでできなかったことを、思い切りできる幸せを感じながら、3年生の皆さんは、学習や、生徒会活動、学校行事や部活動、そして地域の行事などに、前向きに、積極的に取り組みました。ホームページに掲載した写真を、見直してみると、5月以降の写真には、皆さんのたくさんの笑顔とイキイキと躍動する姿、真剣な表情で友達と一緒に活動する姿が増えていることがよく分かります。特に印象的だったのは、体育祭、合唱コンクール、そして職場体験の写真でした。声や表情、身振り手振り、全身を使って自分の考えや感情、意志をお互いに伝え合うことで、個性が磨かれ、体も心も成長することができたように思います。皆さんにとって、中学校の最後の1年間は、一生忘れられない、濃密で貴重な時間になったことでしょうか。それを裏付けるように、皆さんが「キャリアパスポート」の『3年間を振り返って成長したと思うこと』に記したコメントには、次のような記述がたくさんありました。一部を紹介したいと思います。



*私は、友達と協力して目標を達成することがたくさんあったので、人と協力する力が身に付いたと思います。
*自分の気持ちや考えを相手に伝えられるようになり、自分から積極的に行事に参加するようになったと感じました。
*自分の考えをしっかりと持ちながら、周りをよく見て行動できるようになり、周りの人の良さを見つけて、それを生かすことができるようになりました。
*物事を第三者の視点から考えられるようになり、少し大人に近づいたと感じました。
皆さんのコメントを読みながら、大変心配していた『心の成長』が、確実にできていたと実感することができ、とても安心しました。

この先皆さんは、新たな進路先で新しい仲間と出会い、益々成長することだと思います。楽しいこと、嬉しいこともたくさんある一方で、悲しいこと辛いことも必ずあるでしょう。そんなとき「心の成長」とどのように向き合えばよいか、参考になればと思い、私が学生時代に先生から聞いた「心の成長」についての話を、紹介したいと思います。

その先生は『学校は喜怒哀楽の宝庫』という言葉を紹介してくださいました。言い換えると、「学校には『喜怒哀楽』という宝物が詰まっている」ということです。学校で学ぶ大切なことは、学習に関する知識と技能を学ぶこと、そして、人間関係づくりの方法を学ぶことである。生徒の皆さんは多くの仲間と学校生活を共にし、話し合い、感動を分かち合い、時には言い争いをしながら人間関係を育てている。そのために「喜怒哀楽」は欠かせない。学校では楽しいことや嬉しいことばかりではない。哀しいことも腹立たしくなることもある。できれば嬉しいこと、楽しいことだけで学校生活を送ることができれば良いが、そんなにうまい話はない。「喜怒哀楽」の色々な感情を抱えながら、日々友人や周囲の人と、言葉や感情のやり取りを重ねて人は成長していく。だから、学校で周囲の人と関わる時間を大切に少しずつ心を育てて欲しいという話でした。随分昔に聞いた話ではありますが、この1年間の皆さんに通じるものがあると思います。

これから皆さんが進んでいく道には、予測が難しく、先の読めないことがたくさんあります。戦争や自然災害、感染症の流行など不安材料を挙げればきりがありません。しかし、中学校生活の中で、仲間と共に支え合いながら成長したという経験は、これからの皆さんの人生で、皆さんを支える土台として必ず力になり、役に立つことだと思います。それぞれの新しいステージで、湖南中学校の卒業生としての誇りを持ち、これからも「喜怒哀楽」を積み重ねて、逞しく、心豊かに成長を続けてくれることを願っています。

保護者の皆様、これまで本校の教育活動にお寄せいただいたご理解とご協力に対し、改めて厚くお礼申し上げます。お子様が今後豊かで幸せな人生を歩まれることを、私たち教職員一同心からお祈りしております。

それでは卒業生の皆さん、いよいよお別れです。皆さんのご多幸とご活躍を祈念して、式辞とします。

令和6年3月8日 松江市立湖南中学校長 山根斉浩



<在校生代表 送辞>

肌をさすような冷たい空気もいつの間にか和らぎ、吹く風に春の訪れを感じるようになりました。このような良き日に湖南中学校を巣立って行かれる196名の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。今皆さんは、どのような気持ちでこの場に座っておられるのでしょうか。今まで共に歩んできた仲間との別れを惜しむ気持ちや、これから始まる新たな生活に胸をふくらませる気持ちなど、たくさんの思いが心の中にあるのではないのでしょうか。

先輩方との思い出を振り返ってみると、いつも私たちの背中を押してくださったことに、改めて気づきます。

学年の壁を超え、一致団結した体育祭。物語から振り付けまで一から考え、私たちが理解しやすいように、工夫して真剣に教えてくださいました。ダンスが上手くできず、動きが小さくなくても、励まし、何度も指導して教えてくださいました。明るく優しく、私たちの前に立ってくださった先輩方は本当に輝いていました。本番では、どの組も、先輩方のおかげで全力のパフォーマンスを届けることができました。また、私たちの競技のときに、応援席から力強い声援を送ってくださり、最後まで頑張ることができました。この体育祭を通して私たちは団結することで得られる達成感を味わうことができました。

クラス一体となり、美しいハーモニーを奏でた合唱コンクール。3年生の圧倒的なステージは今でも忘れられません。男子の優しく力強い歌声と、女子の透き通るようなきれいな歌声のハーモニーで、会場が包まれました。そして、心のこもったピアノと指揮に最上級生としての誇りや存在感を感じ、私たちもこのような3年生になりたいと思いました。



行事だけでなく、日常生活の中でも、私たちは、先輩方から色々なことを学びました。その中でも時に多くの



の学びを得たのは部活動です。毎日一生懸命取り組む先輩方。汗を流し、ときには涙を流し、私たちに本気になることの素晴らしさと、仲間の大切さを教えてくださいました。最後の大会、笑顔で終わりを迎えることのできた部活動もあれば、悔し涙をのんだ部活動もあったことでしょう。しかし、そのとき見せた先輩方の姿は、どんな瞬間よりも輝いていました。私たちも先輩方のように、努力を惜しまずもっと上を目指していきたいです。

第49期生徒会スローガンは「Colorful」でした。先輩方が受け継ぎ取り組んで来られた行事、部活動の功績、文化面でのたくさんの活躍は、とても素晴らしいものでした。生徒会活動では、目標を立て、話し合い、ポスター掲示やアンケートなど、新しいことに挑戦し続け、湖南中学校を色付けていきました。このような、ひとつひとつの活動には先輩方の想いが込められていて、どれも誇れることばかりです。

これから、それぞれの道に進んで行かれるわけですが、これらの取り組みを自信に変えて、それぞれの場所で活躍されることを信じています。

私たち第50期生徒会スローガンは「飛躍 ～繋ぎ輝く新たな歴史～」です。私たちには、まだ様々な課題があります。しかし、新たなスローガンのもと、在校生で力を合わせ、先輩方がこれまで築かれた湖南中学校の伝統を守り、さらに飛躍していけるよう精一杯頑張ります。

最後になりましたが皆さまのご健康と一層のご活躍を心からお祈りし、お別れの言葉とさせていただきます。

令和6年3月8日 在校生代表 大島 愛

<卒業代表 答辞>

風光る、春のぬくもり、雲一つない空の青、大地は一面に生命に満ちあふれ、耳をすませば歓喜の音が、目を閉じれば春の息吹が感じられます。着慣れた制服とも、通いなれた通学路とも、語り尽くせない思いを共有した仲間とも、別れの時を迎えます。本日は、私たち196名のために、心温まる式を挙げていただき、ありがとうございます。今、私たちはこの日を迎えることができ、たくさんの人に感謝しています。

まず、友よ。3年前を覚えていますか。少し大きめの制服に、とても重い鞆を背負い、不安と期待が入り混じり、活動的だった1年生のころ。戸惑っていた私に、笑顔で手を差し出してくれました。けんかもしましたが、何があってもそばにいてくれました。不安な時も笑顔で過ごすことができ、明日も頑張ろうと思えることができました。だから、あなたのように友達を大切にしようと思いました。3年間の中で、一番成長できた今年。最上級生として色組をまとめた体育祭では、全員が、より良いものを作りあげたいと、同じ思いを持ちながら、うまくいかない理由を相手に求め、衝突したこともありましたが、でも、話し合いを重ね、初めて一つになることができました。そんな3年生に、1・2年生はよくついてきてくれました。体育祭が成功したのは、みんなの「個性」という色が、それぞれの役割の中で仲間と協力し、輝いたからだ、と、はっきり言えます。そして、学級のカラーをまとめ上げた合唱コンクール。1・2年生の時とは違い、みんなが練習からやる気に満ち溢れていました。どんな思いが込められているか、そのためにはどのように歌うか、思いを声に乗せて、聴衆に届ける合唱を目指しました。時に、弱音を吐きそうになることもありましたが、そのたびに、根気強く話し合い、歩み寄ることで、より深く豊かなハーモニーを作り上げることができたと思います。当日、初めての県立大学の体育館に、3年間の集大成として最高の歌声を響かせることができました。友よ本当にありがとう。

次に部活。私は中学校で初めて、陸上の長距離をし、「ライバル」ができました。毎日、仲間ときつい練習メニューに文句を言いつつ笑いながら取り組みました。いつも、私の隣には部活の仲間やライバルがいました。大会に向かうバスではくだらない話で緊張をほぐし、仲間のレースではみんなで大声援を送りました。この力強い応援が、いつも私の力を引き出してくれました。おかげで、3年最後の大会では、想像をはるか上回る記録を出すことができ、仲間たちも自分のことのように喜んでくれました。抜かし抜かされ、共に頑張ってきた仲間からの言葉は心に響きました。仲間がいたからこそ、あきらめず続けることができました。皆さんもきっと同じような経験があると思います。新しい舞台でも、共に競う仲間を大切にしたいです。部活動の仲間たち、ありがとう。

在校生の皆さん。2年間、共に過ごすことができとても楽しかったです。皆さんのおかげで、よいプレッシャーを感じながら過ごすことができました。中学校生活は短いですが、だからこそ、友と過ごす毎日を大切に



してください。そして明日から湖南中を引っ張っていくのは皆さんです。壁にぶつかることもあると思いますが、皆さんの周りには心強い仲間や先生がいることを忘れないでください。来年度は、湖南中も50年の節目を迎えます。新しい生徒会のスローガンのように、1年を通したくさんの壁を乗り越え、大きく飛躍してほしいと思います。そして、湖南中の新たな歴史を作ってください。

家族の皆様。今日で私たちは9年間の義務教育を終え、人生において大きな節目を迎えます。これまで、たくさん迷惑をかけました。でも、家族の支えがあったから、私たちは中学校生活を送ることができました。毎日の生活はもちろん、部活動の送迎や大会の応援、いつもおいしいお弁当。愚痴や相談をたくさん聞いてアドバイスをくれたり叱ったり、いつもたくさんの愛情を注いでくれました。時にはその愛情を素直に受け止めることができず、反抗して困らせてしまうことも。それが苦しくてまた自分にイライラして、当たることもありました。本当にごめんなさい。私たちは、今年初めて、自分で進路を決めました。ほんの少し、自立して大人に近づいているのだと感じます。最後まで見守ってくれたこと、たくさん支えてくれたことに、言い尽くせないほど感謝しています。本当に、ありがとうございます。そして、もう少し、未熟な私たちを優しく見守り、時には叱ってください。よろしくお願いします。



私たちを支えてくださった先生方や職員の皆様。この3年間は、私たちにとって大きな財産となりました。先生方は私たちのことをいつも考え、学習指導や生活指導をしてくださいました。どんなことでも親身になってくださりとても心強かったです。特に学年部の先生方はいつも根気強く真正面から真剣に向き合ってくださいました。先生方の、時に厳しく、時に優しく、心のこもった教えや熱い言葉は、これから人生を歩むうえでとても大切なものだと感じています。決して忘れることはありません。校長先生をはじめ多くの先生や職員の皆さんが支えてくださったおかげで胸を張って堂々と卒業することができます。本当にありがとうございました。

私はこの湖南中で、人と人のつながりの大切さを学びました。3年間決して楽しいことばかりではなかったけれど、様々な経験を経て、私たちは確実に成長したと笑顔で言えます。

今私たちの心の中には、色あせることなく、この中学校で同じ「時」を過ごした仲間がいます。そして、これから、一人一人が新たな場所で新しくつながりを作り、さらに成長するために、次の世界へ旅立ちます。今、こうして卒業を迎えることができたのは一人だけの力ではないことを自覚し、卒業後、一人一人がそれぞれの場所で、自分のカラーを発揮することを願っています。この学び舎での素晴らしい出会いとかけがえのない思い出を胸に、支えてくださったすべての方々へ心より感謝して答辞とさせていただきます。

令和6年3月8日 第49期卒業生代表 森吉優葵

◇卒業式の準備や歓送を盛り上げました◇



卒業式に向けて、在校生の皆さんは準備や歓送に関わりました。1年生は卒業式には参列しませんでした。前日の大掃除や環境整備に取り組みました。2年生は、卒業式の会場準備や3年教室の飾り付けをしました。卒業式後には、昇降口から出てきた卒業生に向けて、応援のメッセージとエールを送りました。1・2年生の協力によって、3年生は気持ちよく卒業していきました。新3年生、

新2年生となる在校生の皆さんの今後の活躍も期待したいと思います。卒業・進級おめでとう。

◇第50期生徒会「スローガン」発表◇

3月19日(火)1・2年生合同の朝礼を開き、第50期生徒会のスローガンを発表しました。第50期生徒会スローガンは次のとおりです。

飛躍 ～繋ぎ輝く新たな歴史～

令和6年度 湖南中学校は開校50周年を迎えます。伝統を受け継ぎ、新しい歴史を創りたいという生徒会執行部の想いが込められています。

◇令和5年度が終了します◇

今年度も保護者や地域の皆様に、たくさんのご支援とご協力をいただき、修了式の日を迎えることができました。心からお礼を申し上げます。令和6年度も引き続きよろしくお願いいたします。

